2025.8.21阿南高校と地域の発展を考えるシンポジウム報告書

兵庫県立村岡高学校

★地域の声★

学校の存続は、私たちの地域の存続でもあります。学校を失った地域が急速に求心力を失っているのはみなさんもご存じのとおりです。今本当に手を打たなければこどもたちの未来はありません。

高校生からのメッセージ

私は高校に入って，それまで当たり前だと思っていた豊かな自然や地元の人の優しさに触れ，『ないもの』をねだるより『あるもの』を探していくことで、新しい発見が生まれると考えるようになりました。私は地域活性化に一番大切なものは『この町をもっとよくしたい、元気にしたい』という気持ちだと思います。私は高校3年間で多くの貴重な経験をすることができ、自分を成長させることができました。そしてなにより自分の地域を好きになることができました。だから私は自分を育ててくれたこの地域を守るため、地域とともに『人』を育てていくのが私の夢です。

報告内容

- (1)学校概況 ①地域系高校 ②文科省研究指定校③村岡高校の変遷 ④スクールミッション ⑤生徒の状況 ⑥自主活動の推進
- (2)とりくみの出発点 ①村岡高校誕生秘話②高校を守るとりくみ ③とりくみの出発点・教職員の苦悩と決断
- (3)地域協働・連携 ①大学等の研究機関 ②地域の行政機関 ③地域の専門家・若者・卒業生
- (4)地域探求実践 ①村高発★地域元気化プロジェクト（総合） ②学校設定教科「地域探求」 ③学校設定教科「総合スポーツ学」
- (5)今後の展望 ①大人の探究コミュニティの構築 ②卒業生ネットワークの構築 ③ふるさと教育の体系化 ④研究センター設立構想
- (6)おわりに ①地域社会で高校が担うポジション ②「地域を育てる学力」～学力の捉え直し～／主権者教育

★青年教職員の声★

多くのことを経験させていただいた。地域だけでなく教員も『頑張る大人』として生徒とともに成長していくことを学んだ。これからも心において教員を続けていこうと思う。

★大学講師の声★

私が発見したのは、思いを持った教員のみなさま、地域の方々、そして村岡の人々の関係性のなかで大きく成長していく生徒たちであった。

私から見れば、「地域の隠された魅力」というのは村高そのものであり、みなさんであった。みなさんは、どうか誇りに思ってもらいたい。他に、こんな高校はないのだから。私は本当に、村岡高校のような学校で、学んでみたかった。

(1)学校概況

みんな(生徒)が主役

村岡高校の冬景色

MATCHのラベル写真

高校生が地域づくりに関わる実践（地域系高校）

「このままでは高校や地域が存続できない」という危機意識

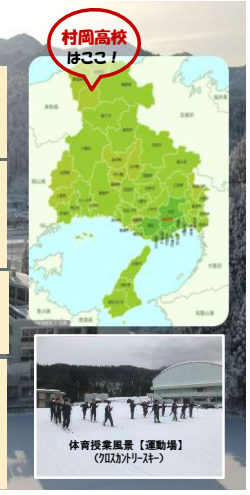
地域衰退に危機感をもった地元の行政やコミュニティが高校に働きかけて一緒に地域づくりを進めようとするケース

島根県立 隠岐島前高等学校等

生徒数が減少するなかで，高校が生き残りをかけて地域に働きかけて一緒に地域づくりを進めようとするケース

兵庫県立 村岡高等学校

学校概況（その2）



(1) **生徒の状況**（2025年度）
全校生徒　102名［6クラス］
1年36名（2クラス）／ 2年32名（2クラス）
3年34名（2クラス）

(2) **教職員の状況**（2025年度）
①教職員18名 校長1・教頭1・教諭15・養護教諭1
②臨時講師3名
③時間講師8名　特別非常勤講師24名(191h)
④事務職員5名　事務長1・事務員2・臨時校務員2

(3) **香美町の状況**（2025年5月1日現在）
・人口 15,050人　世帯数 6,275世帯
（うち村岡区 3,954人・小代区 1,546人）
・第2次総合計画「こどもたちに夢と未来をつなぐ町」

村岡高校は兵庫県の第５学区に属し、連携校方式が採用されており、多くは近隣の３中学から入学してくる。また、急速な過疎化が進行し、年々生徒数も減少してきている。2014年度からは全国募集（学区なし）が可能となり、生徒数確保の取り組みを積極的に行っている。

学校概況（その1） 村岡高校の変遷

1949年度　兵庫県立養蚕（八鹿）高等学校村岡分校 開設
1962年度　兵庫県立村岡高等学校設置（全日制普通科）
1973年度　全日制普通科　1学年５クラス（1976年度の生徒数679名）
1983年度　英語コース設置（後の国際文化コース）
全日制普通科　1学年3クラス（生徒数448名）
2006年度　国際文化コース募集停止
学級減（1学年2クラス）（生徒数231名）

2011年度　地域創造類型設置（特色ある学校づくり）
2013年度　学級減（1学年1クラス）
2014年度　地域アウトドアスポーツ類型に改編
2類型設置　（地域創造系・地域ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ系）
学級増（1学年2クラス）　«学区なし：全国募集»

2020～2022年度　文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

2025年度（現在）全日制普通科　1学年２クラス（創立77周年）
地域アウトドアスポーツ類型（地域創造系／地域ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ系）

2025年度　在籍生徒数　内訳

全日制 普通科		1年	2年	3年	合計
類型	地域創造系（第５学区外の生徒数）	3 (0)	7 (0)	5 (1)	15 (1)
類型	ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ系（第５学区外の生徒数）	7 (2)	7 (2)	7 (3)	21 (7)
普通コース		26	18	22	66
合　計［連携校内の生徒数］		36 [29]	32 [26]	34 [28]	102 [83]

①類型名は**地域アウトドアスポーツ類型**
②( )内は第5学区（但馬）以外の生徒数
③[ ]内は連携校生徒数（地元３中学校）
④クラス編成は普通コースとのミックス

【第5学区（但馬）以外の内訳】・・・民間下宿3カ所に分宿
★県外入学者　３名（山口1・愛知1・京都1）
★県内入学生　５名（神戸1 ・明石2・加古川1・宍粟1）

2020年度～2022年度 文科省研究指定校
兵庫県教育委員会　兵庫県立村岡高等学校　令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

ちいき大好きプロジェクト　～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

但馬地域が輩出した日本のベスタロッチと言われた東井義雄。彼の「村を育てる学力」の理念は、現在の教育に通じる。本プロジェクトは、生徒が地域での学びを通して、「村(地域)を育てる学力」等を身につけるとともに、どの地域で暮らしてもふるさとを愛する、未来型人材の育成を行う。

村岡高校のある香美町の魅力
○山・川・海の豊かな自然環境
○但馬牛・マツバカニなど豊富なブランド食材
○スキー・登山など多様なアウトドアスポーツ施設

香美町の課題
●若い世代の流出による人口減少の加速化と少子高齢化の進展
●地域を支える担い手の高齢化による観光産業等の後継者問題
●雪不足など気象変化の影響によるスキー以外の魅力づくり

村岡高校の目指す姿
地域を愛し、地域課題の解決に寄与する「人づくり」「地域づくり」

<研究開発の目標>　地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する「村岡メソッド」を開発する。

【村岡メソッドのイメージ図】
身につけたい力
具体的取組
地域を知る
・コミュニケーション能力
・課題発見能力
・自己学びに向かう力
・探究活動の手法
・観光施設経営者等による講義
・地域での調査実習
・地域関係者への提案
地域を深める
・新たな価値を創造する能力
・自己表現能力
・議論する力
・地域での探究活動
・全国の地域づくりを学ぶ合宿研修
・スポーツツーリズムの企画、提案
地域を創る
・課題解決能力
・プレゼンテーション能力
・コーディネート能力
・郷土愛
・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表
・スポーツに関する資格取得
・ＨＰ・インスタグラムを活用した地域の魅力発信
・クラウドファンディングを活用した地域活性化プランの実現
・町長と将来の町について語り合う
<村高発　地域元気化プロジェクト（全校生）>
残酷マラソン大会等の企画運営スタッフ、５グループ（地域福祉・民話・食文化・環境・映像集団）の地域協働活動、村高フォーラム（探究活動の成果発表・パネルディスカッション）
地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人材の育成

事業対象学科の生徒数

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	57	62	50	169

学校全体の生徒数

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	57	62	50	169

連携・協力・支援
コンソーシアム構成団体
香美町教育委員会　香美町　地域団体・企業　大学　村岡高校　同窓会　地元研究家　幼・小・中学校
卒業生ネットワーク構築による関係人口の増加
目指す生徒像
地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域貢献を創造する」意欲を持つ生徒。

スクールミッション（目指す学校像）

「人みな使命あり」の理念のもと、地域を学びのフィールドとした高校生活を通して、**創造的に地域と協働することのできる人材を育成する。**

スクールポリシー（育てたい人間像）

創造的に地域と協働するために
必要な三つの力

(1)「考える力」
①課題発見力
②課題解決力
③新たな価値を創造する力
(2)「行動する力」
④コミュニケーション力
⑤コーディネート力
⑥議論する力
(3)「伝える力」
⑦プレゼンテーション力
⑧自己表現力

学校概況（その3）

生徒指導部　基本方針

(1)生命を尊ぶ精神を生徒指導の基本に据え、
⇒いじめ・暴力・体罰の追放
対話を重視した生徒指導をすすめる。
⇒子どもの意見表明権

(2)自発性・自主性・自律性を培い、存在感や成就感を体得する指導を進める。
⇒肯定的な生徒指導の推進

高校のとりくみの出発点

「新構想検討委員会」
⇒2004年度に少子化の影響による学級減が危惧され、それを打開するために設置された。

①教職員アンケート
②近隣中学校訪問
③長野県高校訪問（白馬・辰野・高遠）等

どんな学校を創っていくかを議論

さらに2005年度には地域の声を聞き、議論の場をつくるために「**村高フォーラム**」を開催した。

村岡高校存続への想いは、管理職をはじめ、全教職員が**共通理解**を徐々に深め、一丸となって取り組む姿勢がつくられていった。「**チーム村岡**」

村高フォーラムの出発点

【村高フォーラム2005より】

「農山村に高校をしっかりと根付かせていく」

①大いに高校をどうするか語る（危機意識を地域で共有する）
②高校に対する支援・連携の仕組み・システムをつくる
③高校の良い点、悪い点、あるいは悩んでいる点などをもっと出す
④高校の魅力的な個性をつくる

「確実に自分の将来の夢を育てていく。そして、それに向かってすすんでいく道筋を自分で探る能力をつくる」ことが高校教育の原点と確認する。

(2)とりくみの出発点

地域協働までの道のり

教職員の苦悩と決断

県下各校の特色化が謳われ、 2011年度、村岡高校も少子化による学級減対策として「**地域創造類型**」を創設して募集が開始されることになった。

保護者の興味関心は、卒業後の進学保障。進学に関係のない「地域」をテーマにした学習・・・
・保護者の理解は得られるのか？
・どうすれば生徒募集の切り札とできるのか？

2011(H23）年度　大学教授の助言もあり、今までの「**知識伝達型の授業**」から「**探求心を育む授業**」へとして学校設定教科「**地域探求**」を設置した。（自己の夢への探究心の育成）

2013(H25)年度　全校生による地域活性化へ向けての実践活動として総合的な学習（探究）の時間を「**村高発★地域元気化プロジェクト**」とし、全校生で地域づくりに取り組むこととした。

「地域創造類型」設置趣旨【2011年度設置】

学校設定教科「地域探求」を通して、
郷土について知り、知的探求の方法を学ぶ。

地域との共生を目標に、地域の活性化に努める。

類型別講座を設定し、進路目標に添った授業の展開。

「地域アウトドアスポーツ類型」に改編【2014年度設置】

「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」の2類型設置

地域が高校を守る（その1）

学級減反対の請願署名運動のとりくみ

約３０年前から学級減が危惧されて、地域・保護者・教職員が一体となって学級減阻止のとりくみが行われている。

1999年には住民過半数の請願署名を集め、議会で採択され学級減をくい止めた。その後も地道な学級減阻止のとりくみを継続してきている。

【２００６(H18)年度】
９月　町議会へ請願署名提出
（村岡・小代区6,679筆／人口8,911名）75%
９月　県議会へ請願署名提出
（村岡・小代区，旧関宮町で7,400筆）

村高発★地域元気化プロジェクト
（総合的な探究の時間）【2013(H25)年度～】

■■■3つの特徴■■■

■学年縦割で編成したグループによる活動
■地域と協働した活動を各班で展開

■全校生が地域イベントのスタッフとして参加

■活動成果を全校生や地域へ発表

地域が高校を守る（その2）

香美町が兵庫県教育委員会に要望書提出

2005年　危機意識は地域にも広がり、香美町副町長（旧村岡町長）が主催し、「村岡高校の教育を考える会」（地元の諸団体代表）を開催。

2006年　学級減（２学級）が強行された直後に香美町の『要望書』を携えて、兵庫県教育委員会に対する要請行動を行った。

・・・・・『要望書』（抜粋）・・・・・

先人が心血を注いで創り出した**地域の最高学府**である教育の火を消すことのないよう、今後、地域内の各機関、行政、各中学校が緊密な連携の基に**村岡高等学校への進学率向上**に向けて積極的に取り組んで行く事にいたしました。

村高フォーラム2011基調報告より

＊少子化に対して「未来と地域を担う高校生の育成」を掲げ、
①地域との連携による相互活性化
②学ぶ力の育成による人材づくり
③小中との連携による一貫した教育活動

循環型・地域完結型学校の創造

＊具体的には、
①地域の各種行事スタッフ,「村高除雪隊」等による地域協働活動の展開
②地域創造類型での地域の専門家、鳥取大学と連携した学ぶ力の育成／公開授業
③小中学校の授業・学校行事・部活動等への参加・協力

＊村高フォーラムの目標、
①地域の教育に対する要求をもとに、村岡高校のあり方を探り、教育活動の改善に役立てる。
②地域に根ざし、地域とともに活性化する学校づくりを模索する。

本日のフォーラムに参加された皆様が、村岡高校・地域に対して感じておられることや、要望などを発言していただくことが、何よりも大切だと考えます。皆様の積極的な討論をお願いします。

行政（町）が高校を守る（その１）

高校問題懇話会開催（2012年７月16日）

【テーマ】下宿補助金制度検討
【出席者】≪香美町≫町長・教育長・財務課長
教育総務課副課長
≪村岡高校≫校長・担当職員
≪大学≫　島根大学・鳥取大学

「香美町高校生徒下宿費補助金交付制度」
香美町内の高校に通学不可能な生徒に、上限月４万円の下宿費補助金を交付
＜全県・全国から生徒を募集するための香美町の支援策＞

行政（町）が高校を守る（その２）

行政（香美町）の支援･連携

「香美町総合戦略」(2015-2019)
高校存続に向けた入学者増加の取組に対する支援が施策の柱 のひとつに掲げられた。

「高等学校魅力化支援事業」
魅力ある高校づくりに資する事業・生徒募集活動に資する事業　９０万円

「高校支援連絡会」
香美町企画課・香美町教育委員会・地域おこし協力隊・高校で**毎月１回 開催**し、情報交換を行っている。

「教育コーディネーター」（高校に常駐）
香美町地域おこし協力隊（総務省事業）を派遣。

村岡高等学校 学校運営連携協議会

設　　置　２０１３（平成２５）年３月１１日
協議事項　① 村高と地域との協働活動連携
② 村高の実践成果と課題
③ 村高の教育活動の展開
④ その他事業目的達成に必要な事
（村高下宿運営組織として同意を得た）
委　　員　**① 香美町**（企画課長）
② 香美町教委（教育企画研修室長）
③ 学識者（鳥取大学地域学部教授）
④ 地域小中校長（村岡小・中校長）
⑤ 類型関係団体代表
（冒険教育団体・スポーツ推進委員会・若者懇話会・地元企業）
⑥ 小中ＰＴＡ代表
⑦ 村高同窓会長副会長・ＰＴＡ会長
⑧ 村岡高校長

≪学校運営連携協議会≫

開　　催　学校運営連携協議会　年2回開催
高校支援連絡会　**毎月1回**
（高校・町企画課・町教委）

≪高校支援連絡会≫

教育コーディネーター（地域おこし協力隊）

地域の教育資源を掘り起こし小中高や地域関係者と連携しながら、教育支援を行う。

学校は「暮らしの拠点」
・子育て世代にとっての生命線
・学校がなくなれば、地域の過疎化が進む
・学校や地域が魅力ある教育を提供する必要がある

具体的な活動内容
①学校設定科目・総合的な探究の時間等の企画及び連絡調整
（地域学入門・地域探求・ｽﾋﾟｰﾁ・村高発地域元気化ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ等）
②学校が地域イベントへ参画するための仕掛けづくり
（みかた残酷ﾏﾗｿﾝ・村岡ﾀﾞﾌﾞﾙﾌﾙｳﾙﾄﾗﾗﾝﾆﾝｸﾞ・但馬牛ゆったりｳｫｰｸ等）
③地域の若者との連携のコーディネート
（香美町若者懇話会・村岡おんがえしﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ・美方青年会議所等）
④地域活性化のために小中高が連携した活動のコーディネート

探究活動（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ）　広報活動（入学生増加）　進路実現支援（入試対策支援）

村岡高等学校 高校魅力化推進委員会

2020年度から高校魅力化推進委員会を立ち上げた。学校の校務分掌（専門委員会）の中に組み込み、2025年度は毎週水曜日の6校時に委員会を開催している。

【メンバー】
・責任者は教頭
・類型責任者（教務部長）
・アウトドアスポーツ系担当者（体育科）
・地域創造系担当者
・学年代表
・教育コーディネーター
（村岡高校常駐の香美町地域おこし協力隊）

【協議内容】①授業計画や内容 ②外部講師配置計画
③町行政との連携 ④そのときどきの課題

“見える化” ＆ “持続可能” システムの構築に向けて

(3)地域協働・連携

地域に学び地域と協働する学校

2025高大連携（鳥取大学地域学部）

「学校運営連携協議会」のｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　：岸本　覚 氏【鳥取大学副学長】

「地域創造教育サポーター」の設置　：鳥取大学地域学部の学生に委嘱

アドバイザー	科　　目	テーマ
川口夏希 氏 【地域創造コース 講師】	地域学入門 （地域創造系１年）	リノベーションを通じた地域活性化
石山雄貴 氏 【人間形成コース 准教授】	地域探求Ⅰ （地域創造系２年）	ＳＤＧsによる持続可能社会を目指して
白石秀壽 氏 【地域創造コース 准教授】	地域探求Ⅱ （地域創造系３年）	マーケティングを活用した地域づくり
関耕二 氏 【人間形成コース 准教授】	地域スポーツⅠ・Ⅱ （スポーツ系2,3年）	健康づくりと地域活性（２年） スポーツ観光と地域活性（３年）
講　師	**授 業 名**	**内　容**
市川和也 氏 【人間形成ｺｰｽ 講師】	総合的な探究の時間 （発表会）	助言（評価と課題・展望について）
竹内 潔 氏【地域創造コース 准教授】 市川和也 氏【人間形成コース 講師】 ｱﾚｸｻﾝﾀﾞｰ・ｷﾞﾝﾅ 氏 【国際地域文化コース 講師】	総合的な探究の時間	ファシリテーター／アドバイザー

地域の行政機関等

元気体操サークル普及活動
（香美町福祉課）

水田の土壌調査
（小代地域局）

オリエンテーリング普及活動
（香美町教育委員会生涯学習課）

香美町挨拶運動
（香美町教育委員会教育総務課）

森の健康診断
（香美町農林水産課）

未来ミーティング
（香美町企画課）

第3次香美町総合計画にかかる高校生会議
2024.11.11（香美町企画課）

地域の専門家

但馬の植生
（地元講師）

但馬の地質
（地元講師）

水生昆虫調査
（地元講師）

村岡歴史探索
（地元講師）

紙漉き体験
（地域おこし協力隊）

ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ実習
（とちのき村）

地域の若者と連携（授業参加）

総合的な探究の時間

地域創造系授業

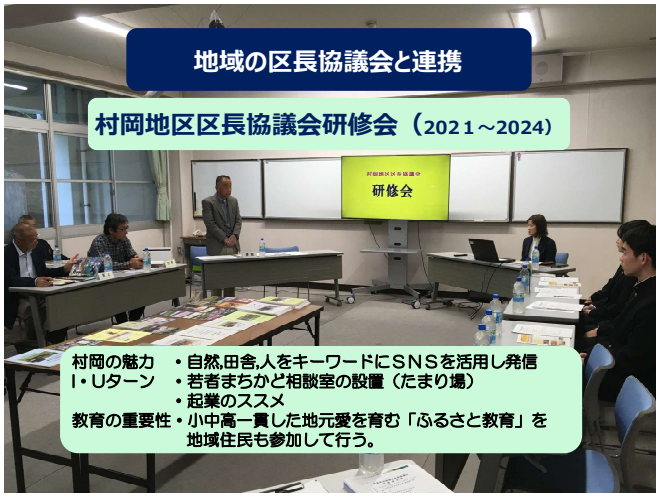
村岡おんがえしプロジェクト（大学生）

香美町若者まちづくり懇話会

卒業生による「居場所づくりワークショップ」 2025.3.8

地域の区長協議会と連携

村岡地区区長協議会研修会（2021～2024）



村岡の魅力　・自然,田舎,人をキーワードにＳＮＳを活用し発信
I・Uターン　・若者まちかど相談室の設置（たまり場）
　　・起業のススメ
教育の重要性・小中高一貫した地元愛を育む「ふるさと教育」を
　　地域住民も参加して行う。

(4)地域探求実践

地域を育てる学力を基盤に

卒業生の出番（関係人口）

地域創造系授業

村高フォーラムパネリスト

地域づくりサミットin但馬　アドバイザー

地域みらい留学　プレゼン

村岡メソッドの具体化

1　村高発★地域元気化プロジェクト
（総合的な探究の時間　1単位）
①地域環境班②地域福祉班③地域文化班④地域創生班
マラソン全国大会全校生スタッフ・村高フォーラム・総合発表会 他

2　地域アウトドアスポーツ類型の授業
（学校設定教科：地域探求 各１単位）
【地域創造系科目】 地域学入門・地域探求Ⅰ・地域探求Ⅱ
【ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ系科目】 地域学入門・地域スポーツⅠ・地域スポーツⅡ

教育課程　ふつうの全日制普通科高校　類型特色

単位数		1 … 26	27	28	29	30	31	32	33
1年	普通ｺｰｽ	普通授業（少人数授業を含む）					LHR	総合的な探究の時間（1年次：地域協働活動）	***
	創造系								地域学入門
	ｽﾎﾟｰﾂ系								地域学入門
2年	普通ｺｰｽ	普通授業（類型選択を含む）							***
	創造系								地域探求Ⅰ
	ｽﾎﾟｰﾂ系	普通授業（類型選択を含む）	生涯ｽﾎﾟｰﾂ探究Ⅰ	ｽﾎﾟｰﾂ実践Ⅰ	冒険教育Ⅰ				地域ｽﾎﾟｰﾂⅠ
3年	普通ｺｰｽ	普通授業（類型選択を含む）							***
	創造系								地域探求Ⅱ
	ｽﾎﾟｰﾂ系	普通授業（類型選択を含む）	生涯ｽﾎﾟｰﾂ探究Ⅱ	ｽﾎﾟｰﾂ実践Ⅱ	冒険教育Ⅱ				地域ｽﾎﾟｰﾂⅡ

みかた残酷マラソン全国大会 村岡ダブルフルウルトラランニング　全校生スタッフ参加

高校生が提言し、企画・実行した内容

①スタート応援の充実

②コミュニティ広場の新設

③高校生臨時給水所

④高校生なまえ応援隊

⑤観光地めぐり企画（高校生ガイド）

田百選に選ばれた「うへ山」の棚田で村高生がランナーの同伴者をガイドして「おもてなし」しました！

『温かい応援をしたい』

とランナーの名前を呼び応援しました

1 村高発 地域元気化プロジェクト

［総合的な探究の時間　1単位］

村高フォーラム

【プレゼン・ポスター発表】
学習の成果をまとめ、一般参加者・全校生に発表する。

【記念講演】
ゲストを招き地域づくりを学ぶ。

【パネル討論会】
地域づくりをテーマに、行政や地域住民と共に討論する。

村高発★地域元気化プロジェクト2025

活動ｸﾞﾙｰﾌﾟ名	活　動　内　容
地域環境班	①棚田【水田の土壌調査】 ②森林【御殿山公園再生プロジェクト】 ③海・川（水質調査）
地域福祉班	①児童福祉【放課後子ども教室】 ②高齢者福祉【生活困りごと調査】 ③障がい者福祉（聞き取り調査） ④公共福祉【空き家を活用した世代間交流】 【村高除雪隊】
地域文化班	①食文化（食材探究・レシピ考案・調理） ②紙漉き【地元小学生紙すき体験スタッフ】
地域創生班	①広報方法研究【村岡高校魅力発信】

開催月日	全校生参加の活動内容
6月8日(日)	みかた残酷ﾏﾗｿﾝに学校行事（全員参加）として企画から参画
9月28日(日)	村岡ﾀﾞﾌﾞﾙﾌﾙﾏﾗｿﾝに学校行事（全員参加）として企画から参画
10月11日(土)	住民を招いて開催する「村高フォーラム」で活動発表
3月5日(木)	校内で活動発表会を開催

村高フォーラム2024パネル討論会 2024年10月12日実施

テーマ「地域と学校／学びが地域を創る」

討論テーマ
「国際的芸術的・文化的アプローチによる地域活性」
～まちのアーティストさんから見た地域づくり～

総合的な探究の時間発表会 2025年3月6日実施

年度末に各班で取り組んできた一年間の活動と成果をまとめ、全校生の前で発表します。発表後、外部講師・地域の方から活動内容や発表方法について講評をいただき、次の活動につなげていきます。

地域アウトドアスポーツ類型における学校設定教科・科目

①地域創造系

学校設定教科	1年	2年	3年
地域協働活動	協働のまちづくり	（総合的な探究の時間）	
地域探求	地域学入門	地域探求Ⅰ	地域探求Ⅱ
表　現			（スピーチ）選択

②アウトドアスポーツ系

学校設定教科	1年	2年	3年
地域協働活動	協働のまちづくり	（総合的な探究の時間）	
地域探求	地域学入門	地域スポーツⅠ	地域スポーツⅡ
総合スポーツ学		冒険教育Ⅰ	冒険教育Ⅱ
		スポーツ実践Ⅰ	スポーツ実践Ⅱ
		生涯スポーツ探究Ⅰ	生涯スポーツ探究Ⅱ
表　現			（スピーチ）選択

2

地域
アウトドアスポーツ類型
～特色ある類型～

「地域探求」って何をまなぶの？

知識伝達型の授業から探求心を育む授業へ（課題解決能力を培う）

地域を知る	地域を深める	地域を創る
地域学入門	地域探求Ⅰ	地域探求Ⅱ
地域の自然と歴史	**課題の設定**	**地域への提言**
各分野の専門家の視点から「郷土」を知る。	知ることで発生した疑問や問題に対する解決方法を、調査活動を通して探る。	「課題」に対する、調査活動と提言書の作成。

学校設定教科「地域探求」の特徴

(1)すべてを公開授業とする（開かれた学校づくり）
- 地域のステキな若者の積極的な授業参加を促す

(2)地元の外部講師を活用（開かれた学校づくり）
- 地質、植生、水生昆虫、海・ｽﾉｰｹﾘﾝｸﾞ、歴史・文化、アウトドアスポーツ
- オリエンテーリング、紙漉きについては地元講師に依頼

(3)調査活動を中心に授業展開（地域への働きかけ）
- 現地調査・聞き取り調査・文献調査

(4)全国の地域づくりの動きを知る
- 大学公開授業参加「実践の知に学ぶ」・教育講演会開催（講師 保母武彦氏）
- 夏季現地研修（2泊3日）/島根県海士町・・徳島県上勝町・長野県阿智村 等

学校設定教科「地域探求」の特徴

(5)学びの場・発表の場を創り出す
- 町長講演会開催・ 高校生による地域づくりサミットin但馬開催
- 大学ラウンドテーブル参加・ 高校生議会参加・他校フォーラム参加
- マイプロジェクトアワード参加 等

(6)地域へ提言する
- 卒業論文「私の地域活性化プラン」（5000字程度）を作成し、香美町長をはじめ、関係各機関に対して提言の場を設け発表する。

(7)3年間のまとめとして成果物を作成する
- ガイドブック、調査報告書、DVD、ガイドマップ、ガイドマニュアル
- 教育教材ゲーム、パンフレット

(8)大学教員による学習の体系化を図る
- 各科目に大学教員を配置し探究活動を3年間で体系的に実施している。
- 大学教員の専門と生徒の希望をできるだけマッチングさせ、探究テーマを設定

地域学入門

地域を知る
(地域創造系1年)

地域の専門家から地域資源と探求の視点を学ぶ
（前期：自然科学/後期：歴史･文化）

地域創造系のキーワード

全国の動きを知る

自己表現力を高める

学びの核をつくる

地域創造系2年合宿研修:（夏季休業中に2泊3日で実施）

＊香美町との合同研修（企画課・教育委員会）＊

2012年～2015年　島根県海士町「行政・地域の先進事例に学ぶ」
2016年　山口県長門市俵山「グリーンツーリズム・体験型ツーリズム視察」
2017年　山口県宇部市「彫刻公園ときわミュージアム視察」
2018年　岡山県西粟倉村「百年の森林構想・ローカルベンチャー視察」
2019年　島根県太田市「U・Iターン企業視察・ふるさと教育教材開発」
2020年　奈良県明日香村「文化財を活用した地域づくり」
2021年　徳島県上勝町「葉っぱビジネスによる地域活性化」
2022年　長野県阿智村「住民主体のまちづくり」
2023年　奈良県明日香村「文化財（石造物）を活用した地域づくり」
　　奈良県宇陀市「室生山上公園芸術の森等を活用した地域づくり」
2024年　岐阜県東白川村「森林資源を活用した地域活性化」
2025年　岡山県西粟倉村「百年の森林（もり）構想」・「西粟倉森の学校」
　　鳥取県日南町「地域循環型林業モデル構想」・「林業アカデミー」

香美町長講演＆討論会

【地域探求公開講座】
「香美町のまちづくり」

講師：穴田廣成　香美町 副町長
助言者　塩沢健一教授
　　鳥取大学地域学部
（2025.8.6実施）

【2020年度　討議テーマ】
コロナ禍における産業・観光の活性化策
【2021年度　討議テーマ】
学校統廃合の是非
【2022年度　討議テーマ】
若者のU・Iターン増加に必要な施策
【2023年度　討議テーマ】
若者が定住・移住する町を目指して
【2024年度　討議テーマ】
人口減少、少子高齢化する香美町で、私たち（高校生）にできること。
【2025年度　討議テーマ】
香美町で”豊かに“暮らす
～東京との比較をとおして～

香美町長への「地域活性化プラン」提言（2015年～）

村岡高生が香美町長に
活性化プラン提言
3年間の学習集大成
日本海新聞

アウトドアスポーツ[ODS]系の展開

■地域にある資源を活かしたアウトドアスポーツの魅力を伝えられるリーダー育成のために、アウトドアスポーツイベントの運営補助や指導法を学び関連する資格の取得を目指す。

1 学年	2 学年	3 学年
地域学入門 アウトドアスポーツの体験とスポーツ理論を学ぶ。 ・スポーツ概論 ・スポーツ指導論 ・トレーニング理論 ・栄養学 ・鍼灸 ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ実習 ・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ体験 ・野外合宿	地域スポーツⅠ スポーツ観光と地域活性	地域スポーツⅡ 健康づくりと地域活性
	冒険教育Ⅰ・Ⅱ アウトドアスポーツインストラクターの資格取得	
	生涯スポーツ探究Ⅰ・Ⅱ ゴルフ・スキー等の技術修得	
	スポーツ実践Ⅰ・Ⅱ トレーニング理論と実践	

アウトドアスポーツ系学校設定教科

総合スポーツ学

学校設定科目　冒険教育Ⅰ・Ⅱ

★MEDIC First Aid 資格取得（救急法）
★ツリーイングジュニアクライマー資格取得
　のための講義＆実習
★ウォールクライミング・ラペリングなどの
　アウトドアスポーツの指導実習

学校設定科目　生涯スポーツ探究Ⅰ・Ⅱ

スノーボード・スキー
インラインスケート・ボルダリング

学校設定科目　スポーツ実践Ⅰ・Ⅱ

座学・・・ 筋肉 骨格の名称 体のつくり リーダー論　救急法など
実践・・・ ウェイトトレーニング　サーキットトレーニング
　　集団行動指揮 授業実践

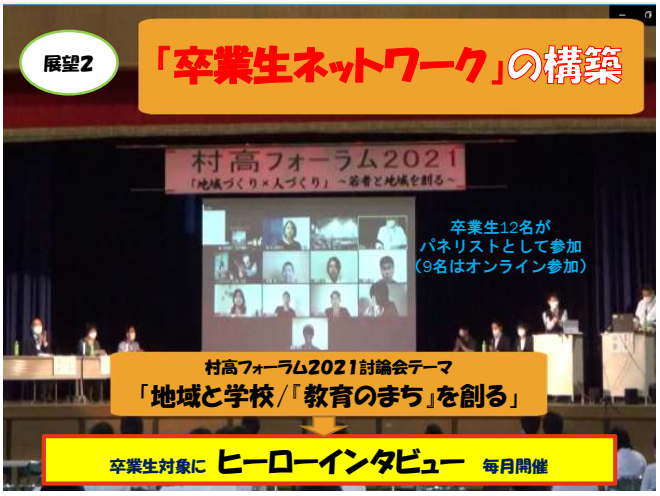
展望1

「大人の探究コミュニティ」の構築

村高フォーラム2020討論会テーマ
「地域と学校/『教育のまち』を創る」

展望2

「卒業生ネットワーク」の構築



村高フォーラム2021討論会テーマ
「地域と学校/『教育のまち』を創る」

卒業生対象に **ヒーローインタビュー**　毎月開催

(5)今後の展望

教育のまちを創る

展望3

ふるさと教育　系統図【試案】

ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを大切にする人づくり

社会教育（生涯学習）

保育・幼児教育	in	地域の中で**体験**する
小学教育	About	地域について**知る・伝える**
中学教育	for	地域のために**行動・貢献**する
高校教育	with	地域と協働して未来を**創る**

将来を担う**人**づくり　　協働の**まち**づくり

展望4

困難な状況に対抗して

★学級減が避けられない状況
現在の教育活動の継続できる仕組みづくり

★学校は地域を支える基盤（「教育のまち」を創る）
小中高校が連携した「ふるさと教育」（地域づくり）の推進の仕組みづくり

★人材還流の場所づくり
若者（卒業生）の協働のまちづくりの場をつくる（関係人口）仕組みづくり

地域社会で高校が担うポジションは・・・

高校は、

協働のまちづくりの拠点

地域の未来を創造する人づくりの拠点

「村を育てる学力」	村を捨てる学力
「みじめな村をさえも見捨てず、愛し、育て得るような、主体性をもった学力」（東井義雄(1957)『村を育てる学力』明治図書）	□競争型教育 □受験のための知識獲得 □地域の若者を都市へ送りだす装置としての学校

「研究センター」の設立構想

地域を育てるためのプラットフォーム（研究センター）

小学校 → 中学校 → 高校

- 地元で定住
- 進学等で離郷
  - Uターン
  - 離郷したまま

小中高の「ふるさと教育」を体系化
・ノウハウ（村岡メソッド）の普及
・学校、関係団体を繋ぐコーディネーター

若者の「協働のまちづくり」の場
・人材（団体）の登録、確保
・人材の育成
・関係人口を繋ぐ窓口

◎ 学校・行政・地域が一体となった「地域を育てる学力」の達成
◎「地域の知」を創造し、地域協働の拠点づくり

地域（村）を育てる学力

「地域（村）を育てる学力」とは地域住民ともに地域課題を実践的に解決するプロセス（地域づくりの過程）を通して、生徒自らが地域の魅力を探し、その魅力を活用した地域課題の解決を考案し実践することで、**よりよい未来の創出に資する活動を展開することができる学力。**

「地域（村）を育てる学力」は将来にわたって自ら主体的に地域のポテンシャルを見いだし、地域活性化に協働・参画する資質・能力として具現化されるものであり、生徒が**希望する多様な進路にも対応**するものである。

(6)おわりに

高校が担うポジション

最後に　地域との「いい関係づくり」 5つのポイント

①「学校づくりは地域づくり」という想いを地域と共有する。
【学校は地域を支える基盤】

②地域の「ステキな大人（若者）」と高校生を結びつけつる。

③学校と地域が定期的な「情報交換の場」を設け、地域の課題と学校の課題を明らかにしていく。

④高校生と地域が「問い」を立てる学びにつながるような教育実践をすすめる。

⑤危機感を全教職員で共有して、地域へ「一歩踏み出す勇気」をつくりだす。

ちょっと追加して・・・・・

⑥教育コーディネーター
（地域おこし協力隊：総務省）を
有効に活用するとgood！（学校に常駐可能）

⑦生徒・教職員・地域のみんなが
「楽しい」と感じるような
取り組みになるとbetter！